



Shimotsuke English Journal (SEJ)

Vol. 42

H31.2.25

今月のキーワード

移行期間の取組①

学習到達目標

下野市では来年度から小学校3・4年生では年間35時間、5・6年生は年間70時間の外国語活動の実施をお願いしています。2020年度からの新学習指導要領全面実施へ向けて、残りの移行期間をどのようなことに留意して取り組んでいけばよいか、先生方と共有したいと思います。

移行期間の取組①

初等教育資料（2019.1）では、「新小学校学習指導要領における外国語教育の在り方」として、2020年度からの全面実施へ向けた重点的な取組について、次の四点が記載されています。

- 1 「言語活動を通して」の理解と実践
- 2 指導者の英語力向上
- 3 「読むこと」「書くこと」の指導の在り方の理解
- 4 小中連携の一層の推進



小学校新学習指導要領の【外国語】の目標（下線追加）
 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの下線活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

1点目の「言語活動を通して」について考えます。

言語活動とは「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う活動」であり、コミュニケーションの目的や場面、状況を設定することが大切になります。

ここで確認しておきたいことは、**指導者の言う英語を繰り返し言う活動は言語活動とは言えない**という点です。繰り返しの練習が必要な場面もありますが、その活動だけに終始していないかどうか、再確認をお願いします。

1月下旬にALT研修として参観させていただいた授業について紹介します。

授業紹介 会場：石橋小学校 授業者：深谷亮太先生・Narumi先生（ALT）
 単元：Unit7 My best memory（6年生）



Tl: What's this picture? Ss: School trip.
 Tl: Where did you go? Ss: Kamakura.
 Tl: When? What month? Ss: November.
 Tl: Did you enjoy? Ss: Yes.



導入場面では、学校行事で実際に撮影した写真を提示し、子どもたちの興味関心を高めながら、**学校行事と月**を表す単語をインプット・アウトプットしていきました。単語を機械的に繰り返し言わせるのではなく、子どもたちの、「言いたい」「話したい」という意欲を大切にしながら、英語でやりとりが行われ、担任の先生の話す英語に子どもたちが引きつけられている姿が大変印象的でした。



学習到達目標とは



現在、中学校では学習到達目標が設定されていますが、外国語活動の教科化に伴い、今後小学校においても設定していく必要があります。今年度末、市から送付する学習到達目標を参考に、今後各校で自校化を図っていただきます。

○「Can-Do リスト」の形で表す学習到達目標とは

学習者が「英語を使って何ができるようになるか」を表したものです。

新学習指導要領に基づき、「聞くこと」「話すこと（やり取り）（発表）」「読むこと」「書くこと」の4技能5領域について設定します。



○活用のしかた（小学校例） ※市で作成した「学習到達目標」「言語活動例」をもとに例示
例） 学習到達目標（小6）

話す（やりとり）

- ・相手に指示や依頼をして、それらに応じたり断ったりすることができる。（ア）
- ・身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちを伝え合うことができる。（イ）
（しもつけ未来学習との関連）

該当する言語活動

話す（やりとり）

- ・夏休みの思い出を友達と伝え合う活動。【Unit5】
- ・将来どんな職業につきたいかについて友達と伝え合う活動。【Unit8】
- ・自分たちが住む地域の良さを友達と伝え合う活動。【Unit4】【しもつけ未来学習】

★「学習到達目標」の活用



年に3回程度（夏休み前、冬休み前、学年末等）、4技能5領域別に、子どもたちがどの程度まで達成できているかを、学年の先生方で確認してみましょう。

★「言語活動例」の活用



授業を進めていく中で、該当するUnitの言語活動例を確認してみましょう。授業や単元で身に付けさせたい力が、どの学習到達目標とつながっているかが分かります。

どのような力を身に付けさせたいのか、教師が具体的な目標を持つことで、指導や評価の改善につながります。また、学習到達目標を児童生徒と共有することで、「～ができるようになりたい」「～を目指そう」といった自覚や目標を持たせることができます。



南河内中学校区における英語教育推進について



2018～2020年度の3年間、南河内中学校区では施設一体型の小中一貫教育研究学校指定事業を進めています。その一環として、英語教育を中心としたコミュニケーション能力の育成を目指した研究を、来年度から進めていただくことになりました（英語教育推進研究学校区）。4月から学習する「しもつけ未来学習」についても、ふるさと学習との関連を図った活用について研究を進めたいと考えています。

今後も、外国語活動・外国語科担当の先生方を中心に、市全体で小・中が連携した英語教育を進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

文責：学校教育課 稲葉亜希恵

